

永小作権ニ関スル請願

(発行年 / Year)

1910

永小作權関乞請願

永小作權ニ関スル請願

高知縣民松尾富太郎等

謹テ書テ内閣總理大臣 俊爵山縣有朋閣下ニ
呈ス回顧スレバ我政府ハ明治廿三年民法ヲ
制定シ之ヲ發布セラルシモ未ダ實施スルニ
及バスレテ今廿九年ニ至リ同法第一編乃至
第三編ヲ改正セラシ而シテ同第四編及第五
編ノ改正案ハ昨十二議會ニ於テ兩院ノ協賛
ヲ經テ三十二年六月十五日ヲ以テ民法施行
法及其他ノ法典ト共ニ發布セラレ今年七月
十六日ヨリ之ヲ施行セラレタリ茲ニ於テカ
帝國人民ハ新ニ法典ノ支配スル所トナリ種

法典調査會

利義務ノ歸屬スル所瞭然トシテ亦明ナルニ
至レリ蓋憲法既ニ制定セラレ國際條約又タ
正ニ改正セラル法典ノ整備亦之ニ伴ハサル
ベカラザルヤ國ヨリ其處之ヲ為メ古來ノ習
慣風俗等ノ多少消滅ニ導シ或ハ變更ヲ求メ
モノアルモ亦實ニ己ムヲ得サルナリ然リト
雖モ其新ニ規定セラレタル法律ノ結果ニヨ
リ多數ノ國民其既得ノ權利ヲ失ヒ非常ノ損
害ヲ被リ甚キハ之が為メ生活ノ途ヲ失フ者
アルニ至ラバ之が休戚ニ関スル所ヲ述ヘテ
其救済ヲ求ムル誠ニ止ムヲ得ガル所ナリ其
等謹テ案スルニ民法施行法第四十七條ニ曰
ク民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存

續期間カ五十年ヨリ長キト雖モ其效力
ヲ存ス但其期間ク民法施行ノ日ヨリ起算シ
テ五十年ヲ起ユルトキハ其日ヨリ起算シテ
之ヲ五十年ニ短縮ス民法施行前ニ期間ヲ定
メテ之ヲ設定シタル永小作權ノ存續期間ハ
慣習ニ依リ五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民
法施行ノ日ヨリ五十年トスト是レ實ニ民法
第二百七十八條ニ淵源スル者ニシテ今條ニ
依レバ永小作權ハ必ス五十年ヲ超ユルコト
ヲ得ス而シテ設定行為ヲ以テ五十年ヨリ長
キ期間トナス者ト雖モ法律ノ力ヲ以テ之ヲ
五十年ニ短縮スルコトヲ規定セリ其法意ヲ
解スル者ハ曰ク無期ノ小作權ヲ認ムルトキ

法典調査會

ハ所有權ノ實ヲ欠キ土地制度ノ秩序ヲ紊リ
且ツ生産力ノ發達ヲ妨グ經濟情態ノ變遷ト
小作料ノ定額ト相隨伴セシムル能ハサル等
種々ノ公害アルカ爲ナラント其等敢テ民法
ノ本條ヲ是非スルモノニアラズト雖モ該施
行法第四十七條ノ關係ニ至テハ即チ默セン
ト欲スルモ能ハサルモノアリ抑モ我高知縣
ノ習慣及裁判例ハ既ニ從來存在セル無期永
久ノ小作權ヲ承認シ民法實施以前ニ於テハ
其權利室ニ鞏固ニシテ何人モ將來其權利ヲ
失フノ虞アルヲ豫想セザリシノミナラズ永
小作權ハ即チ一ツノ不動財産トシテ之ヲ重
ンズルコト普通ノ土地所有權ト毫モ徑庭ナ

クセラ祖先ヨリ襲ヒテ子孫ニ傳ヘ若クハ新
ニ其權利ヲ設定シテ華國ナル財産ナリトナ
セシニ何リ國ラシ今ヤ該施行法ノ爲ニ其權
利ハ忽ケ消滅シテ縣下數村ノ農民其生ラ托
スルニ由ナカラントス東等寡聞ニシテ未ダ
全國永小作ノ慣行ヲ審ニスル能ハス偶々五
大府縣ノ中我高知縣ニ於ケルガ如キ無期永
久ノ小作權ヲ存スルモノアルヲ聞クト雖モ
我高知縣ノ永小作ハ特種ノ性質ヲ有スルモ
ノニシテ他府縣普通ニ行ハルル永小作トハ
全然其情態ヲ異ニスルモノアリ蓋シ普通ノ
所謂永小作ナルモノハ長期ノ借貸借關係ニ
シテ必ズシモ永久無期ノモノニアラサルガ

法典調查會

政ニ民法第百七十八條及今施行法第四十
七條ヲ以テ其年數ヲ限定スル必ズシモ不當
ニ非ガルベシト雖モ獨リ我高知縣ハ此法律
ヲ適用スベカラザル特殊ノ事情アルヲ以テ
今ヤ之ガ爲ノニ一大恐慌ヲ惹起スルニ至レ
リ依テ今我縣下永小作ノ起原及其性質ヲ左
ニ陳セン

抑モ我高知縣ハ其土地ニ本田新田ノ別アリ
テ其ニ永小作權ノ設定アリ就中新田ニ於テ
其設定最モ多キヲ見ル而シテ新田ナルモノ
ハ多ク旧藩主山内氏ノ執政野中兼山ノ創始
ニナルモノニシテ當時甲乙兩者ノ合意ヲ以
テ甲者(地主)ハ開墾スベキ素地ノ額下ヲナシ

乙者(永小作者ハ之ニ開墾ノ資ヲ投シ協力ノ
結果漸ク開墾ヲ成就シタルモノニシテ當時
乙者ハ甲者ニ對シ永遠ニ若干ノ米額(即ケ加
治子米)ヲ償却センコトヲ約シ以テ茲ニ永小
作者ヲ設定シタルモノニシテ甲者ハ只ニ一
定ノ加治子米ヲ收得スルノ外何等ノ權利ヲ
有シ又何等ノ義務ヲ負擔セズ通俗地主ヲ呼
テ底地持ト云ヒ永小作人ヲ上地持又ハ中地
頭ト稱シ政府ノ徵税金書ハ直接ニ永小作人
ニ向ツテ之ヲ發シ所謂納租送公用普請其他
諸課役悉ク永小作人ノ負擔スル所ニシテ就
中戊辰ノ戰役ニ於ケル軍事實費ノ如キハ地主
四分小作人六分ノ割合ヲ以テ徵收セラレタ

法典調査會

リ而シテ該永小作權ハ往古ヨリ永小作人ニ
於テ隨意ニ轉賣讓與シ若クハ抵当物權ト
ナシ或ハ地目ノ交換等ヲナスコトヲ得タリ
本田トハ往古山内氏ノ未ダ入國セサル前ニ
檢定セラレタル土地ニ對スル名稱ニシテ山
内氏ノ制本田ハ農民ノミ之ヲ所有スルコト
ヲ得ルト雖モ士工商ノ之ヲ所有スルヲ許サ
ス以テ兼併ノ弊ヲ防止シタルガ故ニ士工商
ト農民ノ間公然土地所有權ノ賣買ヲナスヲ
得ズ然ルニ或ル土地ヨリ年々一定ノ米額即
ケ加治子米ナルモノヲ收得スルノ權利ヲ設
定シテ之ヲ賣買スルコトハ然許セラレタル
ナリ是レ本田ニ於タル永小作ノ起源ニシテ

加治子未買得者ハ只ニ一定ノ未願ヲ受クル
ノ權利ヲ得タル而已ニテ他ニ何等ノ權利義
務ヲ有セザルコト新田ニ於ケルト同一ナリ
而シテ永小作ノ起原ハ尚之ニ止マラズ明治
維新後ニ至リ完全ナル土地所有者ニシテ或
ハ加治子未收得權ヲ賣却シ永小作權ノミテ
残存スルモノアリ(例ヘバ一反ノ土地ニシテ
該地ノ全權ヲ賣却セバ其價格三百圓ナルト
キ之ヲ百五十圓ニ賣却シ百五十圓ニ相當ス
ル加治子未ヲ定メ作株ノ價格ニ尙百五十圓
ヲ残存スルガ如シ或ハ永小作權ヲ賣却シ自
ラ加治子未收得者トナルモノアリ後年地券
ヲ發行セラルルニ當リ加治子未收得者ヲ地

法典調查會

主ト定メタルモ其地券面ノ地價ナルモノハ
土地ノ實價ニ依ラズ加治子未ノ多寡ニ應ジ
之ヲ決定セシモノナルガ故ニ地租改正ノ際
地方廳ハ該永小作權處分ノ必要アリトシ明
治七年十二月中央政府ニ訓示ヲ仰ギタルニ
令七年二月十七日付ヲ以テ本邦内務大隈大
藏兩卿ヨリ高知縣永小作權ハ地主小作人ノ
内孰レカ一方ニ之ヲ買收シ所有權ヲ一定セ
シムベキ旨指令セリ仍テ地方廳ハ右指令ニ
基キ地主及小作人等ニ小作權ノ處分スベキ
旨ヲ訓諭シ其結果一部ニ於テハ或ハ土地ヲ
折半シ或ハ地主六分小作人四分或ハ小作人
六分地主四分等ノ方法ヲ以テ分地ヲナシ若

ノハ一方ヨリ僱金ヲ出シテ地主権又ハ小作
權ヲ收得スル等ノコトアリシト雖モ尙熟議
ノ就ラザルモノ夥多ニシテ地主小作人ノ間
感情ノ衝突ヲ生シ一時人心洶騰頗ル不穩ノ
狀アルニ至リシカバ終ニ政府ハ当初ノ指令
ヲ取消シ旧慣其位ニ差置クベシト訓令ヲ
發セラシ永小作ノ存續ヲ公認セラレタルヲ
以テ租稅諸公課ノ如キモ依然永小作人ノ負
擔スル所トナリ地租ノ改正ニ依リ生じタル
稅額ノ増減或ハ常ニ増減アル縣稅町村稅等
悉ク小作人ノ權利義務ニ屬シ減稅ノ剩増稅
ノ損地主ハ毫モ關與セザルナリ

夫レ我高知縣永小作權ノ起源性質既ニ此ノ如

法典調查會

キヲ以テ民法施行法第四十七條ハ實際所有
權アル小作人ノ權利ヲ奪ヒ之ヲ有名無實ノ
所有者タル地主ニ與フルヲ結果ヲ求スモノ
ニシテ其不當ナル言ヲ煩ヒズ且ツ永小作權
ヲ永久無期トナストキハ所有權獨立セスト
ニフト雖モ我高知縣永小作ノ性質ハ寧ロ所
有權ノ移轉ニ類シ普通賃賃借ノ長期ナルモ
ノニアラズ則チ地主タレノ資格ハ小作人之
ヲ有シ納稅ノ義務使用賃金ノ權皆小作人ニ
屬シ地主ハ小作人ヨリ一定ノ米額ヲ收得ス
ベキ一種物權約ノ利益ヲ得ルニ過キスレテ
其所謂加治子米ナル者ハ無期年金ノ性質ニ
屬セルヲ以テ所有權ノ獨立スベキ理由アル

コトナレ又土地制度ニ就テ之ヲ言フモ登記
制度ノ完制シタル今日ニ在ラハ毫モ秩序ヲ
紊ルノ憂ナク又生産力ノ發達ヲ妨グト言ヒ
經濟情態ノ變遷ト小作科ト相隨伴セズト言
フガ如キモ亦實際ニ反シ道理ニ適セザルモ
ノナリ何トナレバ前述ノ性質ヲ有スル永小
作地ノ利害ハ本来全ク小作人ニ屬スルカ故
ニ小作人ハ自己ノ所有地ニ對スルト同一ノ
意思ヲ以テ之ニ勞力費用ヲ加ヘ永遠ノ利益
ヲ期シテ改良ヲ施シ其生産力發達ノ利得小
作人ニ之ヲ享有ス誠ニ當然ノ結果ニシテ彼ノ改
良ヲ加ヘ收入ヲ多クスルトキハ隨テ借地料
ヲ増額セラルルガ如キモノトハ今日ニ論ス

法典調覽會

マキモノナランヤ右ノ次第ナルヲ以テ我高
知縣既存ノ永小作ニ對シテハ存續期間制限
ノ必要ヲ認ムル能ハスト雖モ法律ノ適否ハ
一部ノ事情ヲ以テ之ヲ論スマキモノニアラ
ザレバ其等敢テ絶体ニ永久無期ノ小作權ヲ
保存セントスルモノニアラス只ゾ公平ノ處
分ヲ以テ既得ノ權利ヲ正當ニ保護セラレン
コトヲ望ムノミ

以上異陳スル事由ニヨリ民法施行法第四十
七條ヲ以テ直ニ我縣下既存ノ永小作權ニ適
用セントスルニ至テハ其等道理及實情ニ徴
シテ其不條理ナルヲ切言セザルヲ得ス夫レ
如斯我縣下永小作ハ亦全ク貸借ノ性質ニ

アラズ其加治子米ハ所謂耕作ノ報酬ニアラ
ズレテ他ノ原因ニ依テ地主ヨリ小作人ノ土
地ニ負擔セシメタル無期年金ナリ則チ永小
作權ハ無期年金付ノ所有權ナルヲ以テ地主
ニシテ永小作權ヲ買収セント欲セバ宛カモ
他人ノ所有地ヲ買収スルト同レク其承諾ヲ
經相當ノ代價ヲ并償セザルベカラザルナリ
然ルニ民法施行法ハ今後五十年ノ期間満了
ト共ニ小作人永久ノ資産ヲ奪フテ之ヲ地主
ニ與ヘントス夫レ地主ナルモノハ多クハ社
會ノ上流ニ在リ公民トシテ又タ私人トシテ
幾多ノ權勢カヲ有シ殊ニ近來土地兼併ノ變是
等ノ人ニアツテ彌々増加セラレントスルノ
傾向アリ而シテ該施行法ハ此權勢ヲ助長シ
更ニ一歩ヲ進メタルモノニシテ社會政策ヨ
リ之ヲ論スルモ其宜シキヲ得タルモノト言
フベカラズ彼ノ國家若クハ地方公共事業ニ
必要ナル爲ニ私人ノ財産ヲ收用スル時ト雖
モ土地收用法徵發令等ノ定ムル所ニ依リ大
ハ土地家屋ヨリ小ハ勿米什器ニ至ル迄各相
當ノ賠償ヲ與ヘテ而シテ後之ヲ收用スルニ
アラズヤ仅今法典實施ノ際土地制度ノ統一
ヲ急進ニスル必要アリトスルモ其結果國民
ノ資産ヲ奪フテ之ヲ他ノ一方ニ與フルモ猶
之ヲ斷行セザルベカラズト言ハシカ是實ニ
大憲ノ保障其效ナキモノニシテ立憲政体ノ

治下豈此奇異ノ現象アルベケンヤ若シ夫レ
其等小人自己ノ過失ニヨリ今日ノ不幸ヲ
見シカ是レ寔ニ己ムヲ得サルコトニシテ自
ラ責ムルノ外ナレト雖モ既ニ自己ノ過失ニ
ヤラズ焉ンゾ懣クル所ナカルベケンヤ茲ニ
於テ我等ノ切ニ希望スル所ノモノハ民法施
行法中當該條項ヲ修正シ民法施行前ニ設定
セシ無期ノ永小作權及地上權ヲハ民法施行
後ト雖モ永久ニ其效力ヲ存スベキコトヲ規
定コラルル方然ラズンバ單行法律ヲ設ケテ
民法施行法ノ規定ニ依リ永小作權及地上權
消滅スル時期ニ至ル迄ニ永小作權者等ハ償
金ヲ出シテ所有權ヲ收得スルヲ得ベク若シ

法典調查會

永小作權者等ニ其希望ナキ時ハ地主ニ於テ
償金ヲ出シテ永小作權ヲ收得スルヲ得ベキ
コトヲ規定シ以テ永小作人ノ損害ヲ救ハレ
ントスルニアリ

其等謹テ案スルニ民法ハ國家重要ノ法典ナ
リ濫リニ之ヲ改正ヲナスベキニアラズト雖
モ其關係スル所重大ニシテ多數ノ國民ヲレ
テ非常ノ損害ヲ被ムラレムル如キコトアラ
バカクトモ之ヲ救済法ヲ設ケテ甚苦痛ヨリ
脱セシメガルベカラズ思フニ旧民法ノ其施
行ヲ延期セウレ遂ニ施行セウレシテ改正
セウレタル所以ノ者ハ古來ノ慣習ニ反シ爲
ニ國民民福ヲ害スルノ虞アリレガ故ナラズ

トセシヤ又彼ノ明治三十二年三月失火ノ責
任ニ關スル法律ヲ發布セラシ民法第七百九
條ニ除外例ヲ設ケラレタルモ亦此主旨ニ外
ナズ又ト信ズ此二者ハ國民ノ其ニ満足ヲ表
スル所而ルニ今ヤ民法施行法ノ發布ニ依リ
五十年ノ期間満了ヲ待スレテ既ニ我高知縣
ニ於テハ大恐慌ヲ生シ永小作權ノ價格ヲ暴
落シ爲ニ資産ノ半ヲ失ハント又差シ失シ茲
ニ救済ヲ施サルルコトナクニテ他日永小作
權存續期間満了ノ期ニ際シ地主ニ對シ永小
作權等設定ノ更新ヲ求メルカ必ズヤ現時ニ
教倍スル小作料ノ増額ヲ請求セラルルニ非
ズンバ全ク其更新ヲ拒絶セテレ祖先傳來ノ

法典調查會

産業ヲ失ヒ子孫教養ノ資ナキハ勿論賴ラ以
テ生ラ杜スルノ途ナキニ至ラントス將來ノ
事今ヨリ之ヲ想ヘバ其等憂懼措ク處ヲ知ラ
サレナリ希クハ閣下深ク我縣下永小作權ノ
起源ト其事情ノ在ル所ヲ諒察セラレ以テ之
レカ救済法ノ制定ヲ企劃セラレシコトヲ謹
テ請願ス

明治三十二年七月廿八日

高知縣香土郡山田町三百六十四番地平民

杉尾富田 祿

以下人名異ス

内閣總理大臣陸奥山縣有朋殿